

出典：司馬遷 史記 老子韓非列伝（9～10）

○莊子者，蒙人也，名周。

莊子は蒙県（もうけん，河南省）の人である。

名は周。

○周嘗為蒙漆園吏，

莊周は前に蒙県の漆園の吏官だった。

○與梁惠王、齊宣王同時。

梁の恵王・齊の宣王と同時代の人である。

○其學無所不闢，

学問は広範で思考の及ばない所が無かったが、

○然其要本歸於老子之言。

その要諦は老子の言葉に帰依したものである。

○故其著書十餘萬言，

その著書十数万字は、

○大抵率寓言也。

殆どが寓話・物語である。

○作漁父、盜跖、胠篋，

漁父（ぎよほ）・盜石（とうせき）・胠篋

（きよきょう）の諸編を書いたのは、

○以詆訛孔子之徒，

孔子の徒を誹謗して

○以明老子之術。

老子の学問を明らかにしようとしたからだ。

○畏累虚、亢桑子之屬，

畏累虚（わいるいきよ）・亢桑子（こうそうし）

などの人物についての話は、

○皆空語無事實。

荒唐無稽なことである。

○然善屬書離辭，

だが良く文章を書いて言辞を連ね、

○指事類情、

世間・人情を上手く使って、

○用剽剥儒、墨、

儒家・墨家を非難した。

○雖當世宿學

当時かなりの学者であった者も、

○不能自解免也。

莊子の非難の舌鋒を逃れられなかった。

○其言洸洋自恣以適己、

莊子の言葉は非常に広大で際限がなく

自己中心的だったので、

○故自王公大人不能器之。

王公・大人も莊子を優れた人材として

採用することは出来なかった。

○楚威王聞莊周賢，

楚の威王が莊子の賢才を聞いて、

○使使厚幣迎之，

立派な礼物を持たせた使者を派遣して、

○許以為相。

宰相として迎えようとした。

○莊周笑謂楚使者曰：

だが莊周は笑って使者に言った。

○「千金，重利；

『千金も頂けるのはとても大きな利益であり、

○卿相，尊位也。

宰相の地位は尊ぶべきものだ。

○子獨不見郊祭之犧牛乎？

しかし、あなたは郊祭（天を祀る儀式）

に使う犠牲の牛を見たことはないか。

○養食之數歲，

あの牛は、数年間大切に養われて、

○衣以文繡，

綺麗な縫い取りがされた衣裳を着せられて

○以入大廟。

大廟に入れられる。

○當是之時，雖欲為孤豚，

犠牲として殺されるのが嫌だから子豚に

なりたいと希望しても、

○豈可得乎？

どうしてそんなことができるだろうか。

○子亟去，

早く立ち去ってくれないか。

○無汚我。

私を汚さないでくれ、

○我寧游戲汚瀆之中自快，

私は汚い溝の中で気持ちよく泳いで
いたいのだ。

○無為有國者所羈，

国家を保有する諸侯のような者に
縛られたくない。

○終身不仕，

死ぬまで人・国には仕えず、

○以快吾志焉。」

気楽な志を持ち自由に生きていきたいのだ。』

と。